

## 49. 棟安 正人氏（北九州ホテル協議会 会長）

「誰もを受け入れ、『選ばれるまち』『優しいまち』へ」



棟安 正人（むねやす まさと）

兵庫県出身。

リーガロイヤルホテル東京、リーガロイヤルホテル大阪等を経て2021年リーガロイヤルホテル小倉 副支配人。

総支配人を経て、代表取締役社長（現職）。

北九州ホテル協議会 会長。

### 「リーダーを中心としたまちの活性化を」

ホテル協議会では北九州市の宿泊施設全体の活性化に取り組んでいます。北九州市で一番客室数が多いのが「西鉄イン」、宴会場を含めて規模が一番大きいのが「リーガロイヤルホテル小倉」ですが、それらは小倉駅周辺に集中しており、市全体として大きなホテルが少なく、ビジネスホテルが点在しているのが現状です。

五市対等合併ではありますが、北九州市は広い地域に跨っており、小倉以外のエリアまで地域活性化が届いていないと感じています。さらなる活性化のためにはリーダー的な存在が必要ではないでしょうか。

### 「人を受け入れる度量、ポテンシャルを生かし動き続けるまち」

多様性を受け入れるまちということは、将来も引き継ぐべきではないでしょうか。人を受け入れる度量はとても重要です。

かつて北九州市は、公害のまちでした。今では洞海湾も多くの魚が住むきれいな海となり、水道水も綺麗になりましたが、そのような歴史が世間一般に伝わっていません。このような困難を克服したという経験や底力はポテンシャルとしてもっと生かすべきだと考えます。

また、北九州市に住んでいると、改めていろいろな施設が整備されてきて、生活レベルが上がってきていると感じます。宿泊特化型ホテル

の事業者目線でいうと、まちが動けばお客さまが増えます。何かを動かすことによってまちは活性化します。そのため、北九州市は常に動き続ける必要があると思います。

### 「新たな層を誘客できるホテルが必要」

ホテル協議会に参画する施設は市内に点在しており、2023年は30施設です。参画施設数の減少もありますが、ビジネスユース主体のホテルが中心であるため、宿泊者数等はコロナ前の2019年とあまり変わっておらず、他の自治体と比べてもとても低い水準です。ビジネス向けの施設は飽和状態ですが、北九州市が観光に力を入れるにあたっては、5つ星ブランドのホテルが市内にできれば、新たな層のお客さまの獲得も可能となるのではないのでしょうか。

### 「高単価のインバウンド誘客に向けた仕掛けづくり」

インバウンドはFIT（個人旅行）化が進んでいます。高いお金を払ってでも北九州市に来るといふサイクルができていません。お金を出しても見合う価値があると思えるような海外への発信が必要だと思います。

そのため、インバウンドを呼び込むための仕掛けが必要です。京都がオーバーツーリズムに悩まされている中、NYタイムズが「2024年に行くべき52か所」で世界各地の旅行先で山口

市を3位に取り上げました。小倉駅から新山口駅まで新幹線を使えば2駅です。そう考えると、地理的なポテンシャルで北九州市を選んでもらえる可能性も高いと思います。

### 「メガチェーンの誘致や投資喚起が必要」

長崎市は元気があります。「マリオット」「ヒルトン」「IHG (ANA)」の3メガチェーンが世界で頭一つ抜けていますが、「マリオット」が長崎駅前が開業することで、このメガチェーンが揃うことになりました。さらに、2024年の秋頃には「ジャパネットたかた」が、新たなサッカースタジアムに併設する形で、約250室のホテルを開業します。そういった面で非常に注目が集まっているのです。

福岡市でも、「ザ・リッツカールトン福岡」が開業し、プライベートジェットで来ている宿泊客がいらっしゃるといふ話も耳に入ってきています。

メガチェーンは、それぞれが会員組織を持っており、これまでとは違うお客さまが来るようになります。しかし、北九州市には立地していないので、海外の方が検索すると北九州市は宿泊先としてヒットしません。市内で星が付いているホテルは「リーガロイヤルホテル小倉」のみです。北九州市ほどの規模でそのような状況の都市は少ないのです。ビジネスライクなまちという印象がついてしまっていると感じます。

世の中では、高いデザイン性や宿泊以外の付加価値等を有する「ライフスタイルホテル」が流行しており、「日航」や「無印良品」が地方に進出してきています。「星野リゾート」も「OMO」ブランドで下関市に展開するようですが、北九州市に来て良いと思います。地道な接点をつくっていくことが大事です。

森トラストも「ホテルインディゴ」を長崎に開業します。ブティックホテルですが、古い建物をリノベーションし、24年の冬に開業予定です。このように投資家がホテルを出したくな

る地域になることが必要ではないでしょうか。

### 「ホテル誘致が必要だという共通認識を」

宿泊特化型は建設しやすいですが、インバウンドを組み込んでいくためには、さらなる施設が必要になります。行政・業界・地域が連携し、意識を共有することが重要です。

北九州市は、風光明媚な千畳敷などがある若松北海岸や「星野リゾート」と同じ発想で、門司も誘致するのにポテンシャルの高い立地を有しています。メガジップラインの話もありますし、海や山といった自然が豊富で、門司港レトロというブランドもあり、素晴らしい所です。

### 「インフラ整備、若者の仕事づくりを」

小倉に重要なのはインフラの整備です。小倉を中心として、扇状に五市全体がつながっている状態、例えばモノレールが全市に網羅されているようなことを目指してほしいと思います。

また、都会へ憧れて出て行く人もいれば、都会生活に疲れている人も多くいます。地元出身者が帰ってくる形で人口減を回避できる糸口がそこにあると考えます。そのためには若者の仕事がたくさんある状態をつくるのが大切です。リモートで居住地を自由に選べる仕事も増えています。北九州市は、住みやすさ、子育てしやすさが魅力ですので、そこを推すべきではないでしょうか。

### 「選ばれるまち、そして優しいまちへ」

「若者が帰って来ることができる」、「地元でなくても受け入れてくれる」といった要素を備え、「選ばれるまち」「優しいまち」を北九州市は目指すべきだと考えます。誰しも受け入れる安心なまち、くつろげるまち、その意味では北九州市は、東京のようなお洒落なビルが並べば良いということではなく、ハイブリッドなまちになると良いのではないのでしょうか。